

## 2008年度 排水基準超過一覧

区分	場所	日付	項目	値	基準値	原因	対策
＜吉田キャンパス＞							
病院	No.5(サービスサブライ棟)	2008/4/1	pH(水素イオン濃度)	9.5	5を超え9未満	洗濯排水の中和剤投入量が不足.	中和剤の投入量に十分注意するよう指示.
ウイルス研究所		2008/4/1	pH(水素イオン濃度)	9.2	5を超え9未満	いずれかの研究室にて原因となる溶液を無意識に流したと推定.	危険性についての再教育を進める.
医学研究科(人間健康科学系専攻)	人間健康科学科校舎 No.6T	2008/5/15	BOD(生物化学酸素要求量)	820	600未満	耐震工事終了3月以降、実験室整備中のため実験排水使用量が少く、汚染物の濃度変化が現れたと推測.	教員、学生に注意喚起. 定期的に水道水を放流し、配水管内の流量を増加させ、汚水を滞留させない.
協会会社等	中央食堂	2008/6/4	ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類)	38	30以下	フライヤー油処理の際、床に溢した廃油を新聞紙での吸収が不十分であった.	溢した廃油を新聞紙で充分吸収させる.
協会会社等	レストラン・ラトゥール	2008/6/20	ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類)	120	30以下	採水日前日に多数の来客があり、洗浄物が多数出たため.	グリストラップの清掃の再徹底、調理器具等の残留油分の拭き取り徹底、浮遊油分の吸着・除去の再徹底を行う.
理学研究科	No.3(雨水排水系統)	2008/7/3	ノルマルヘキサン抽出物質含有量(全)	5.9	5以下	動物植物油脂類の流入の可能性が高いと推定.	分析を鉱油類含有量、動植物含有量に分けて、原因を特定しやすくする.
医学研究科(人間健康科学系専攻)	人間健康科学科校舎 No.6	2008/7/15	BOD(生物化学酸素要求量)	810	600未満	耐震工事後、実験室整備中のため実験排水使用量が少く、汚染物の濃度変化が現れたと推測.	教員、学生に注意喚起. 定期的に水道水を放流し、配水管内の流量を増加させ、汚水を滞留させない.
病院	No.5(サービスサブライ棟)	2008/8/1	pH(水素イオン濃度)	9.3	5を超え9未満	ボイラから排出されるブロー水のボイラ処理剤が十分に希釈、中和されなかったと推定.	ブロー水を希釈または中和等の処理にて充分するよう指示.
協会会社等	中央食堂	2008/9/10	ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類)	44	30以下	洗浄作業、清掃作業の不備.	店舗での業務指示を徹底する.
協会会社等	レストラン・ラトゥール	2008/9/19	BOD(生物化学酸素要求量)	650	600未満	採水日前日に多数の来客があり、大量の洗浄物が要因.	グリストラップの清掃の再徹底、調理器具等の残留油分の拭き取り徹底、浮遊油分の吸着・除去の再徹底を行う.
協会会社等	レストラン・ラトゥール	2008/6/20	ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類)	170	30以下	採水日前日に多数の来客があり、大量の洗浄物が要因.	グリストラップの清掃の再徹底、調理器具等の残留油分の拭き取り徹底、浮遊油分の吸着・除去の再徹底を行う.
ウイルス研究所	No.8U	2008/12/1	フェノール	2.9	1以下	実験室で希釈液の残液を含んだものを排水溝に誤って流したと推定されるが、特定にはいたらない.	教授会にて実験用薬品の取り扱いを注意喚起. 化学物質委員長より構成員に薬品の取り扱いを周知した.
学生センター	吉田食堂	2008/12/17	n-H抽出物質動植物油脂類含有量	31	30以下	前日の大規模コンパ後の洗浄・清掃作業の不備による	吸着シートの交換、お店舗での業務指示を徹底する.
人事・共済事務センター	レストラン・ラトゥール	2008/12/19	BOD	660	600未満	採水日前日の洗い物が大量にあった.	グリストラップの清掃強化. 浮遊油分の吸着素材を検討. 従業員への周知徹底.
人事・共済事務センター	レストラン・ラトゥール	2008/12/19	n-H抽出物質動植物油脂類含有量	90	30以下	採水日前日の洗い物が大量にあった.	グリストラップの清掃強化. 浮遊油分の吸着素材を検討. 従業員への周知徹底.
医学研究科	No.1	2009/1/20	pH	9	5を超え9未満	生活排水のため原因を特定するには時間を要する.	先端科学研究棟及びG棟の研究室に注意喚起を行い、原因の特定に向けた協議・調査を継続し行う.
医学研究科	No.1(生活系排水)先端科学研究棟・西側	2009/2/24	pH	9	5を超え9未満	生活系排水のため、原因の特定には時間を要する.	先端科学研究棟及びG棟の実験研究室に注意喚起を行い、原因の特定に向けた協議・調査を継続して行く.

区分	場所	日付	項目	値	基準値	原因	対策
医学研究科	No.1 (生活系排水) 先端科学研究棟・西側	2009/3/31	フェノール	1.8	1以下	生活系排水のため、原因の特定には時間を要する。	先端科学研究棟及びG棟の実験研究室に注意喚起を行い、原因の特定に向けた協議・調査を継続して行く。
学生センター	中央食堂(生協)	2009/3/25	n-H抽出物質動植物油脂類含有量	41	30以下	油脂付着厨房備品を洗浄した為。	新入従業員に業務指示を徹底する。
企画部 (社会連携推進部)	レストラン・トワール	2009/3/24	n-H抽出物質動植物油脂類含有量	60	30以下	来客が多かった為、洗い物が多量に出た為。	グリストラップの清掃、皿・調理器具の残留油分拭き取り、浮遊油分の吸着・除去の徹底。
＜桂キャンパス＞							
工学研究科(桂)	No.2(Aクラス生活排水放流口)	2008/4/1	ノルマルヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	31	30以下	食物等に含まれる油脂類の投棄・放流によると推定。	「桂キャンパスの生活排水について」を関連研究室・事務室へ送付し注意を喚起した。
工学研究科(桂)	No.4(ローム記念館生活排水放流口)	2008/4/1	ノルマルヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	84	30以下	食物等に含まれる油脂類の投棄・放流によると推定。	「桂キャンパスの生活排水について」を関連研究室・事務室へ送付し注意を喚起した。
工学研究科(桂)	No.4(ローム記念館生活排水放流口)	2008/4/1	BOD(生物化学酸素要求量)	880	600未満	食べ物の残り物、油脂、有機物の放流によると推定。また、生活水量が非常に少ない。	「桂キャンパスの生活排水について」を関連研究室・事務室へ送付し注意を喚起した。
工学研究科(桂)	No.3(工学系生活排水生活排水放流口)	2008/7/1	ノルマルヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	32	30以下	食物等に含まれる油脂類の投棄・放流によると推定。	「桂キャンパスの生活排水について」を関連研究室・事務室へ送付し注意喚起し、上水使用量を幾分増やす(排水を希釈する)処置を依頼。
工学研究科(桂)	No.4(ローム記念館生活排水放流口)	2008/7/1	ノルマルヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	4	30以下	食物等に含まれる油脂類の投棄・放流によると推定。	「桂キャンパスの生活排水について」を関連研究室・事務室へ送付し注意喚起し、上水使用量を幾分増やす(排水を希釈する)処置を依頼。
工学研究科(桂)	No.4(ローム記念館生活排水放流口)	2008/7/1	BOD(生物化学酸素要求量)	650	600未満	食べ物の残り物、油脂、有機物の放流によると推定。また、生活水量が非常に少ない。	「桂キャンパスの生活排水について」を関連研究室・事務室へ送付し注意喚起し、上水使用量を幾分増やす(排水を希釈する)処置を依頼。
工学研究科(桂)	No.3	2009/1/13	BOD	740	600未満	生活排水使用量が少なく、トイレ汚水による濃度変化が大きいと推定される。	全構成員に注意喚起文を送付。